



- 永代共養墓について
- ぶつぶつ雑記ブログ
- 真言宗について
- 金剛院イベント情報
- 金剛院 建築計画
- しいなまち・みとら
- 唱えてみよう!
- 仏教一年生
- 金剛院NewS
- メールを送る
- こんごういんキッズ!
- たいけんしてみよう!
- まんが小坊主くん!
- 金剛院について
- おすすめリンク集
- メディアで紹介
- 東京お寺めぐり
- ぶつムクイズ
- 金剛院の四季
- バックナンバー
- ほほほのれしび
- ふしぎな密教法具
- 地図・アクセス
- サイトマップ

 検索

エッセイ 仏教一年生

- 第37回 [「智の器」としてのお寺の面白さ](#)
- 第36回 [日食メガネと雨男](#)
- 第35回 [東日本大震災一周年に想うこと](#)
- 第34回 [インドマジックで被災地に笑顔を「2」](#)
- 第33回 [インドマジックで被災地に笑顔を「1」](#)
- 第31回 [井戸の話](#)
- 第30回 [五筆和尚伝説](#)
- 第29回 [縁の下をささえる人々](#)
- 第28回 [日本人、最高!](#)
- 第27回 [人間と占い](#)
- 第26回 [空海さんの謎](#)
- 第25回 [私の知らない私](#)
- 第24回 [記憶と感情](#)
- 第23回 [美人病にかかる\(後編\)](#)
- 第22回 [美人病にかかる\(前編\)](#)
- 第21回 [四億年の引きこもり](#)
- 第20回 [年齢を隠したがる人たち](#)
- 第19回 [若い時の苦労は買ってでもしろ](#)
- 第18回 [子離れの季節](#)
- 第17回 [35年目の同窓会](#)
- 第16回 [不老不死のお酒](#)
- 第15回 [アンチエイジング](#)
- 第14回 [女子力不足](#)
- 第13回 [仏のレッスン](#)
- 第12回 [母と子をつなぐ道](#)
- 第11回 [座敷わらし](#)
- 第10回 [夢のお告げ](#)
- 第9回 [犬に引かれて](#)
- 第8回 [生まれ変わり](#)
- 第7回 [お葬式の意味](#)
- 第6回 [不思議なご縁](#)
- 第5回 [生きるための勇気](#)
- 第4回 [祖母の形見](#)

仏教一年生

山田真美・著



作家、日印芸術研究所言語センター長の山田真美さんの連載です。

[プロフィール紹介](#)

第19回 若い時の苦労は買ってでもしろ

BI 0 | m チェック | いいね! 0 | Tweet

前回、息子の巣立ちについて書いたところ、思いがけず、たくさんの方からメールをいただきました(皆さま、ありがとうございました)。

その多くが、「自分の子どもが巣立った日を思い出して目頭が熱くなりました」といった、子を想う親心へのシンパシーでしたが、そのなかに一通、

「真美さんはオーストラリア留学の費用をご自分で稼がれたということですが、一体どうやってそんなに頑張れたのですか」

という内容のメールが混ざっていました。

そこで今回は、私がまだ学生だった頃のことについてお話したいと思います。

私が生まれた家は、ひと言でいうと「とても堅い家」でした。親戚一同、公務員だらけ。血液型はほぼ全員A型。そのうえ苗字が「鈴木」ときた日には、笑い話になりそうなほど典型的な日本人ファミリーと言えるのではないのでしょうか。

言うまでもなく、鈴木家のメンバーはみんな規則正しい生活を送っていました。起床、就寝、食事や入浴の時間はもちろん、1年分の予定か、ヘタをすると10年先、20年先の予定までが決まっているような家庭でした。

そんな家に、ひとりだけ毛色の違った人間として生まれる。これはなかなか大変なことです。私は生まれつき慣習や常識に感わされず、「わが道」を行きたいタイプ。小学校に入るか入らない頃には、

「早く日本の外へ出て、海の向こうにある広い世界をこの目で確かめたい！」

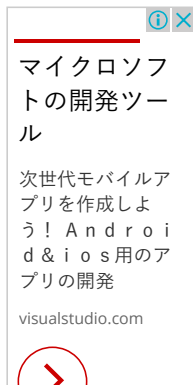
と夢見ていました。

とはいえ当時の私は、コネもお金もない田舎の女の子。海外に行きたいと思えども、どうすることもできません。

あの当時、首都圏から離れた地方都市ではFEN(アメリカのラジオ局)を聞くことも、外国人の姿を見ることすら滅多にありませんでした。しかも私の周囲には、外国へ行ったことのある人も英語を話せる人もいません。

もしも、あの頃の私に少しでも人と違うところがあったとすれば、自分の夢をどこまでも信

- [第3回 ありがとうの輪](#)
- [第2回 お釈迦さまのお顔](#)
- [第1回 算数と仏教](#)
- [仏教一年生 山田真美・著](#)



じる力。これだけでしょ。中学、高校と、少しずつ大人に近づいてゆくあいだも、「海の向こうにある世界をこの目で確かめたい」という気持ちが揺らぐことは、ついに一度もありませんでしたから。

さて、故郷の高校を卒業して東京の大学に入った私は、しばらくすると「卒業後は海外の大学院へ進もう」と思うようになっていました。海外留学なんて、まだ珍しい時代です。それに、前回も書いたように、父は私が留学することに大反対。

父が反対しているということは、すなわち、留学費用は両親に頼れないということです。普通ならここで諦めてしまうのですが、私は「諦める」なんて思いもしませんでした。

(大学院進学のこととは、どうか自力で切り抜けよう。必要なのは英語力と軍資金だ。このふたつを、自分の力で何とかしよう)

と決心したのです。

まず、英語力をどうするか。中学高校を通じて英語は大好きでしたから、大学に入った時点で、すでに少しは話すことができました。とはいえ、それはあくまでも“趣味の英語”程度であって、とても実戦に耐えうるシロモノではありません。早いところ英語をモノにしなければ、留学どころではない。かといって、プライベートな先生につくお金もない。困っていた、そんなある日のこと。

デパートの家具売り場でウィンドーショッピングをしていると、年配の外国人夫妻がやって来て、レジ店員に向かってジェスチャーをまじえながら何かを訴えはじめました。レジ係の女性は言葉がわからないらしく、対応に苦慮している様子です。

近づいて耳を傾けてみたところ、ご夫妻は、「とても気に入ったスーツがあるので買いたいが、今から数日ほど旅に出ってしまうので、その間、品物を取り置いてくれませんか。お金は今、払います」と頼んでいたのです。

私は思わず、「よろしかったら通訳いたしましょうか」と声をかけていました。店員さんがホツとしたような顔で「ぜひ、お願いします」とおっしゃったので、その場で通訳をすることになりました。

ご夫妻はよほど感激なさったらしく、「ぜひ、お礼をさせてください」と言って聞きません。押し問答の末に、結局は赤坂の高級レストランで夕食をご馳走してもらうことになりました。ご夫妻は、某国の大使館にお勤めのような様子でした。

これが初めてのプチ通訳体験だったわけですが、このときの出会いがきっかけとなって、私のもとにはクチコミで次々に通訳のアルバイトが入るようになるのですから、人生はどこで転機が訪れるかわからないものですよ。

たった一度の親切が、次のクライアントを呼び、そのクライアントがさらに次のクライアントを呼ぶという、いわば「わらしべ長者方式」で顧客が増え、私は大学が休みの週末ごとに通訳に駆り出されるようになっていったのです。

お客さまは、世界中からやって来ました。イタリア人医師の団体、インドの国会議員と随行記者たち、グルメが目的の香港からのグループ、アメリカの農協ツアーなどなど。故郷に住んでいた頃は外国人に会うこと自体がなかった私が、こうしていきなりありとあらゆる人々に会い、慣れない英語で通訳をしているのです。

知らない単語が多いので、最初のうちは辞書を片手に仕事をしていました。ふつうではありえない話ですが、「通訳はマミさん」と指名してくれた、クチコミで集まって来たお客さまだから許されたことです。

マジメな鈴木家の血が幸いしたのか、仕事上の私は、とにかく一生懸命でした。またサービス精神が旺盛なので、頼まれていないことも良いと思えばとどどん提案し、喜ばればやる気が出るので、さらに頑張るといった具合でした。

英語を話せる人があまりいなかった時代に生まれたことも幸いしたと思います。大学の4

年間、時間が許す限り、必要としてくれる人たちがいる限り通訳のバイトに打ち込んだ結果、私の英語力は留学が可能ラインまでアップし、と同時に大学院の軍資金のほうも、気がつけばバイト料でどうにかなっていたのでした。

最近ときどき、

「山田さんはいいですね、語学の才能があつて」

と言われることがあります。国際会議や大使館のパーティーで英語を話している私をご覧になって、私が何の苦勞もせず外国語をマスターしたと勘違いなさるのかも知れません。

そんなとき、私は笑いながら正直にこう答えています。

「私に、特別な語学の才能なんてありませんよ。ただ、私の辞書には『諦める』の文字はないんです。何かをマスターしたいと本気で思ったら、最後まで諦めずに徹底的にやる。自分を信じる。それだけです」

子どもの頃は、「英語を話せる親だったらな」とか「もっと理解のある父親だったら」といけども思ったものですが、今では「そんなものに恵まれなくて、本当に良かった」と本心から思っています。

むかしの人の言葉どおり、若い時の苦勞は買ってでもすべきです。

なぜなら、苦勞の木に生(な)る実ほど美味しいものはありませんから。

◀ [第18回 子離れの季節](#) [第20回 年齢を隠したがる人たち](#) ▶

山田 真美 (やまだ・まみ) プロフィール紹介

作家、日印芸術研究所言語センター長。密教学修士(高野山大学)。現在、お茶の水女子大学大学院博士課程後期在学中。1960年長野市生まれ。明治学院大学卒業後、ニュー・サウス・ウェールズ大学(豪)でマッコウクジラの回遊を研究。その後インド政府の招聘でヒンドゥー神話を調査研究。1996年より6年間ニューデリー在住。

主な著書にダライ・ラマ法王へのインタビューも収録した『死との対話』、ベストセラーとなった『ブースケとパンダの英語でスパイ大作戦』など。

訳書に第二次世界大戦の秘史を扱った『生きて虜囚の辱めを受けず』。

長年にわたりインドを日本に紹介してきた功績を認められ2007年、インド国立文学アカデミーより世界で3人目となるドクター・アーナンダ・クマラスワミ・フェロースhipを受ける。

財団法人日印協会理事。日本文化デザインフォーラム、日本蜘蛛学会、宇宙作家クラブ会員。国立天文台広報普及委員会委員。

山田真美 公式ホームページ: <http://www.yamadamami.com/>



不動明王が守る

高野山伝燈大阿闍梨が開眼入魂 凄まじい開運力、一寸不動明王
j-reimei.comへ進む



[▲このページの先頭へ](#)



© 2002-2016

真言宗豊山派 金剛院

[永代供養墓 密厳霊塔](#)

[しいなまち みとら](#)

[こんごういんキッズ](#)

[メディアで紹介](#)

[ぶつぶつ雑記ブログ](#)

[唱えてみよう!](#)

[ないけんしてみよう!](#)

[東京お寺めぐり](#)

[ばばばのレシピ](#)

[真言宗について](#)

[仏教いちねんせい](#)

[まんが 小坊主くん!](#)

[ぶつ仏クイズ](#)

[ふしぎな密教法具](#)

[金剛院イベント情報](#)

[金剛院NewS](#)

[金剛院について](#)

[金剛院の四季](#)

[地図・アクセス](#)

[メールを送る](#)

[おすすめリンク集](#)

[バックナンバー](#)

[サイトマップ](#)

毎日話して同僚に差をつける

vipabcで365日24時間いつでもレッスン 外国人講師の無料体験レッスンは
こちら vipabc.co.jpへ進む

